

# 岸野文雄・佐瀬一男両先生 退職記念号の発刊に寄せて

花 見 常 幸

1971年（昭和46年）の本学開学、また76年の通信教育部開設以来、本学と通信教育部の建設と発展のために、教育と研究の両面において、多大な貢献をされてこられた岸野文雄・佐瀬一男両先生が、本年3月をもって、定年退職を迎えられた。長年にわたる両先生のご功績は誠に大きく、そのご恩に少しでも報いるために、通信教育部学会は、退職記念号を発刊する運びとなった。これは、通信教育部学会のみならず通信教育部としても、大いなる喜びとするところである。

岸野文雄先生は、1942年4月に東京都にお生まれになり、1967年東洋大学経済学部を卒業、1969年明治大学大学院政治経済学研究科の修士課程を修了された後、1970年駒澤大学大学院経済学研究科博士課程に入学される。同研究科博士課程では、マクロ経済学の研究に取り組み、1973年同博士課程を満期退学されるが、博士課程在学中である1971年に、開学した本学に経済学部助手として赴任される。学寮運営委員として男子寮である滝山寮の寮規則の原案作成に携わるなど、開学当初の大学建設に尽力されたのである。

1976年の通信教育部の開設と同時に通信教育部に移られ、草創期の通信教育部の基礎・基盤の建設のために力を尽くされる。1981年に通信教育部専任講師、1991年には教授に就任され、本年まで通信教育部教授として21年間教鞭をとられてきた。それは、本学創立者池田大作先生が通信教育部に示された「学は光」との根本精神を胸に、通教生が「学ぶ喜び」を実感できる教育を目指して努力を続けられた日々であった。具体的には、通信教育課程の経済学分野の中心者として、経済原論、金融論、日本経済論、経済学概論、自立学習入門などの多くの科目を担当され、通学課程でも、経済学入門、経済原論、金融機関論、専門演習（ゼミ）などを担当された。通学課程の経済学部ゼミからは、経済学部首席卒業生をはじめとして、銀行などの金融分野で活躍する優秀な卒業生を数多く輩出されている。また、国家試験研究室の外交課程で、マクロ経済学とミクロ経済学の講義を担当され、消費生活アドバイザー試験のために経済統計を教えられるなど、課外講座でも本学の発展のために力を尽くされてきた。

研究業績としては、『日本の金融システムと金融構造』、『経済原論：市場メカニズムと財政・金融政策の効果』、『金融論：現代金融の理論と構造』などの著書をはじめとして、著作目録にある通り、金融政策論およびマクロ経済政策に関する数多くの学術論文を執筆され、学界の発展に貢献されてきた。

一方、佐瀬一男先生は、1943年2月に東京都にお生まれになり、1969年中央大学法学部政治学科卒業後、駒澤大学大学院法学研究科修士課程および博士課程で刑法学を学ばれる。駒澤大学の大学院時代に、主観主義刑法学の大家である木村亀二先生に師事され、このことが、刑罰論について教育刑を重視する考え方に繋がり、非行少年の矯正教育を主眼とする少年法の研究に大きな関心を抱かれる原点となったとのことである。

佐瀬先生は、1976年の本学通信教育部の開設と同時に専任インストラクターとして本学に赴任される。創立者池田先生が「民衆教育のための大きな眼目である」と述べられた通信教育部開設の趣旨に深く賛同され、その構想実現のために本学に集われたのであった。以来、専任講師、助教授、そして教授として、また資格試験指導室長、eスクーリング・コンテンツ制作室長として、草創期から今日に至るまで36年間にわたり、通信教育部の建設、発展に大きな貢献をされてこられた。とりわけ、通教生の教育には、ご自身が大学の通信教育部で学ばれたご経験もあることから、一貫して並々ならぬ情熱を傾けられ、多くの通教生を親身になって励まし、学問の楽しさを教え続けられた。また、通学課程においても、14年間、行政教育センターのセンター長として、公務員試験を目指す学生を強力にサポートする活動続けられ、本学の公務員試験分野における、現在の大きな実績の基礎を築かれたことも特記すべき事柄である。さらにご長女の佐瀬恵子先生が、先生の志を継いで、刑法学の研究者となり、本学法科大学院の若手教員の一人として学生の教育に情熱を燃やされていることも、誠に喜ばしいことである。

研究業績については、刑法学の体系書である『刑法各論』をはじめ、『人権はだれのものか』、『高齢学へのプレリュード』などの数多くの著書があり、論文については、とくに少年法の分野において、「少年院における矯正教育」に関する優れた論考があり、刑法学界においても注目されている。この研究は、全国51か所の少年院の151回に及ぶ実地調査および米国のアリゾナ州とペンシルバニア州の少年院についての精力的な実地調査に基づいたものである。

以上のような、岸野先生、佐瀬先生の本学並びに通信教育部における教育および研究上の多大なご貢献に対して、通信教育部教員会は両先生を本学名誉教授に推挙申し上げ、3月の第39回卒業式の席上、名誉教授称号の授与がなされた。両先生は確かにご退職されたのではあるが、お二人の先生が身を持って示して下さった「学生第一」の精神と行動は、不滅のものであり、後に続く通信教育部教員の私どもが亀鑑とすべきものである。

岸野・佐瀬両先生が、これまでも増して、益々ご壮健であられ、ご活躍されることを深くお祈り申し上げ、記念号の献呈の辞としたい。

2013年6月6日